

令和 3 年度 施策評価表

第 4 章 『みどりあふれる持続可能なエコタウン』								
まちづくりの目標	エネルギーや資源を多量に消費する浪費型の生活を見直し、人と自然がともに生きる、みどりあふれる持続可能な“まち”をめざします。							
分野別計画・指針	所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)、所沢市地球温暖化対策実行計画、所沢市環境教育等に関する行動計画、第三次不老川生活排水対策推進計画、所沢市みどりの基本計画、公共施設緑化ガイドライン みどり つなぐまち 所沢、所沢市一般廃棄物処理基本計画							
第1節	低炭素社会							
関係所属	マチごとエコタウン推進課、道路建設課、河川課、上下水道局総務課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,537人		満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「低炭素社会」 所沢市は地球温暖化防止や環境配慮に熱心なまちだ		352	13.9%	186	7.3%			
評価指標の達成状況	指標名	単位	(H28)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	市域における温室効果ガス排出量の削減率 (基準年:平成25年度)	%	4.8	9.3 (R元:7.6)	15.1 (R元)	○	16.1	
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-1-1	地球温暖化緩和策の推進	市の事務事業から発生する温室効果ガスの削減率(基準年:平成25年度)	%	(H28)15.2	21.9 (R元:20.2)	67.4 (R元)	○	28.6
4-1-2	エネルギー使用に伴う環境負荷の低減	市域における再生エネルギー設備の総出力	MW	(H28)33.6	37.8 (R元:36.6)	37.4 (R元)	○	42.6
4-1-3	気候変動の影響への適応	雨水流出抑制指導による施設の設置割合	%	(H29)100	100	100	○	100
節の基本方針への取り組み状況								
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り								
<p>○令和2年11月に、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を市単独で宣言した。宣言当日は、埼玉県目標設定型排出量取引制度におけるクレジットを用いて、式典会場(所沢市市制施行70周年記念式典)のカーボンオフセットを実施した。これを機に脱炭素化に向けた取組(環境にやさしい電気の普及、ゼロカーボンシティ推進室の設置等)をさらに推進していく。</p> <p>○令和3年2月に、埼玉県西部地域まちづくり協議会の構成市(飯能市、狭山市、入間市、日高市)と共に、ゼロカーボンシティ共同宣言をし、再エネ、省エネ、吸収源に関わる対策で連携を行っていくものとした。</p> <p>○令和元年度までの高圧施設に続き、令和3年1月より市の低圧施設においても「(株)ところざわ未来電力」を通じた環境にやさしい電力の利用を開始したことにより、市の施設から排出されるCO₂をさらに削減した。</p> <p>○令和2年度は、上下水道局庁舎、市立向陽中学校に太陽光発電設備及び蓄電池を設置し、自家消費により各々年間13.58t、14.67tのCO₂の排出量削減を図るとともに、同時に導入した蓄電池を災害時の非常用電源として活用することとし、レジリエンスの強化も図った。</p> <p>○温室効果ガスの排出割合が高い民生家庭・業務部門への対策を推進するため、省エネ・創エネ機器の導入及び住宅の断熱改修等に係る経費の一部を助成する「スマートハウス化推進補助事業」を実施した。令和2年度は、家庭、事業者、自治会・管理組合に対し、各々557件、3件、6件について補助金を交付し、計約468tのCO₂/年の温室効果ガスの削減効果となった。</p> <p>○令和2年11月に、所沢市環境審議会から、「所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)に基づく環境施策の効果的な推進方策について」(答申)が提出された。答申内容は、R3年度の事業立案に反映させた。(「マチエコリーダー養成講座」、「マチエコ推進ワークショップ」等)</p> <p>○令和元年度から、所沢版RE100として、毎月25日を「RE100の日」に定め、対象施設の使用電力を再生可能エネルギー100%としている。令和2年度は本庁舎、上下水道局庁舎、市民医療センターに加え、保健センター、まちづくりセンター(11ヶ所)、こどもと福祉の未来館についても実施した。</p> <p>○令和3年1月にFCV(トヨタ ミライ)を購入し、走行時にCO₂を排出しない公用車として活用の他、緊急時の電源として活用するための配備態勢を整えた。</p> <p>○埼玉県が行う柳瀬川改修事業を進めるため、埼玉県及び清瀬市と共同で、河川改修の支障となっている清柳橋の架け替え工事を行っている。令和2年度は左岸の橋りょう下部工事及び護岸工事を完了した。併せて、橋りょう改築に伴う周辺市道の整備のための用地取得を行った。</p> <p>○開発事業による雨水の流出を抑制するため、開発事業者(85者)に対し雨水抑制施設設置の行政指導を行い、全ての開発事業で設置された。</p>								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析								

今後の方向性			
<p>◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○ゼロカーボンシティの実現に係る戦略(ロードマップ)を構築する。</p> <p>○市域の効果的な脱炭素対策として、スマートハウス化補助金の充実(ソーラーシェアリングも含む)、家庭・事業者への環境にやさしい電力の普及をさらに推進する。</p> <p>○環境に配慮している事業者に対し、競争入札参加資格や指定管理者評価の際に加点を行う等のインセンティブの付与により、環境配慮に係る啓発及び市場拡大を進める。</p> <p>○市の事務事業からの脱炭素対策として、公共施設への太陽光発電の導入やZEB化を進めるためのルールづくりを整備する。</p> <p>○気候変動適応策に関して、計画策定の必要性も視野に入れつつ、関係各課とも連携し、優先度の高いものから進める。</p> <p>○河川・水路の氾濫等の軽減及び地下水の涵養を図るため、継続して開発業者に対し雨水抑制施設の設置を指導する。</p> <p>○柳瀬川の治水対策を推進するため、埼玉県及び清瀬市と協力し、河川改修の支障となっている清柳橋の架け替及び周辺道路整備を進める。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p>			
SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
レ	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R3.7.30	記入者職氏名	環境クリーン部次長 稲子谷 昂子 建設部道路建設担当参事 吉田 進一 建設部河川担当参事 加藤 孝雄

第2節	みどり・生物							
関係所属	みどり自然課、生活環境課、河川課、公園課							
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,537人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「みどり・生物」 所沢市はみどり豊かで生き物が棲みやすいまちだ			1,414	55.7%	365	14.4%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
	新たなみどりの確保量		ha	55.07	80.00	96.83	○	98.00
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-2-1	生物多様性への理解の推進	みどりとふれあうイベントの参加者数	人	1,767	2,000	0	×	2,000
4-2-2	人と自然との絆の強化	みどりのパートナーの登録者数	人	1,368	1,400	1,500	○	1,420
4-2-3	みどりと水の保全	水辺のサポーター・ふるさとの川再生事業団体数	団体	8	8	9	○	10
4-2-3	みどりと水の保全	都市公園の整備面積	ha	141.19	143.14	142.49	×	148.02
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○みどりの保全のため「みどりの基本計画」にもとづき地域制緑地の指定と公有地化をはかった。地域制緑地は10.67ha(上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域(0.48ha)、荒幡富士市民の森(0.27ha)、若狭二丁目市民の森(1.33ha)、くぬぎ山特別緑地保全地区(8.41ha)、東所沢四丁目まちなかみどり保全地区(0.05ha)、若狭一丁目まちなかみどり保全地区(0.13ha))を拡大した。公有地は約1ha(くぬぎ山地区特別緑地保全地区(1,755㎡)、上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域(2,322㎡)、北中ふるさとのみどりの景観地(4062㎡)、畦ノ前緑地(1,431㎡)、砂川堀緑地(419㎡))を拡大した。</p> <p>○みどりのパートナー制度の周知と参加の案内を継続し、登録者数(90名)が増加した。</p> <p>○生物多様性ところざわ戦略についてパブリックコメントを実施するとともに、みどりの審議会より答申をいただき、令和3年4月に策定した。</p> <p>○自治会に対し「所沢市水辺のサポーター制度」を説明することにより、新たに1団体が水辺のサポーターに加入した。</p> <p>○クールジャパンフォレスト拠点施設の周辺環境整備の一環として、東川沿いの遊歩道について桜の剪定並びに延長130mの区間においてウッドチップ敷を実施。</p> <p>○所沢カルチャーパークは事業用地約2,014㎡を取得するとともに、街区公園については、松戸橋公園1,799.14㎡の面積を整備した。</p> <p>○外来生物法の特定外来生物に指定されているアライグマを90頭を捕獲した。</p>								
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p><みどりとふれあうイベントの参加者数></p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、みどりのふれあいウォークや生物多様性に関する啓発イベントの開催を断念した。啓発イベントはニュースレター(計3回)の発行に代替し、啓発に努めた。</p> <p><都市公園の整備面積></p> <p>○所沢カルチャーパークにおいて、予定していた用地取得面積に達しなかった。また、開発行為に伴い帰属される公園について、想定した面積に満たなかった。</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○里山保全地域等の地域制緑地の指定を進め、特に保全が必要な緑地は公有地化する。</p> <p>○まちなかみどり保全地区の指定やみどりのエコスポットの整備など、まちなかのみどりを保全・創出することで市民へ憩いの場を提供する。</p> <p>○みどりのパートナー制度への登録者を引き続き募るとともに、緑化や育成に関する講座を実施し、登録者の活動を支援する。</p> <p>○水辺のサポーター・ふるさとの川再生事業については、PR活動を推進し、協力団体数の増加を図る。</p> <p>○東川沿いの遊歩道について桜並木の適正管理とともに歩行空間の整備を進める。</p> <p>○所沢カルチャーパークについて、遊具、園路等の築造工事を進めると共に用地の取得を完了させ、令和3年度内の完成を目指すものである。</p> <p>○埼玉県が策定した「埼玉県アライグマ防除実施計画」に基づき、防除対策を実施し、生活被害の軽減に努める。</p>								
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p><みどりとふれあうイベントの参加者数></p> <p>新型コロナウイルス感染症に関する社会動向等を慎重に見極めながら、安全、安心な開催を念頭に実施方法について模索していく。</p> <p><都市公園の整備面積></p> <p>都市公園整備を推進するとともに、用地取得の交渉などを継続的に進めるとともに配置計画に基づく整備を進める。</p>								

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R3.7.30	記入者職氏名	環境クリーン部みどり自然担当参事 奥村 稔 建設部次長 遠藤 弘樹 建設部河川担当参事 加藤 孝雄

第3節	循環型社会							
関係所属	資源循環推進課、東部クリーンセンター、西部クリーンセンター、収集管理事務所							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,537人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「循環型社会」 所沢市はごみの減量と資源化の取組が充実している			1,028	40.5%	246	9.7%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
	市民1人1日あたりのごみの排出量		g/人・日	580.0	578.5	592.7	×	575.6
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-3-1	『もったいない』社会の形成	総ごみ量に対するリサイクル率	%	28.9	30.4	31.0	○	32.4
4-3-2	ごみ処理の低炭素化の推進	ごみ焼却発電による場内電気使用量賄率	%	73.83	100	141.20	○	100
4-3-3	ごみの適正な処理の推進	不法投棄物量	t	26.0	24.8	12.9	○	23.2
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○令和元年10月に東部クリーンセンター灰溶融炉を廃止していることから、令和元年度に引き続き焼却灰等の資源化を推進した。</p> <p>○令和2年度に東部クリーンセンターの延命化工事が終了し、施設全体の省エネ化が進んだことから、ごみ焼却による年間総発電量が場内電気使用量を大きく上回った。</p> <p>○食品ロスゼロのまち協力店に対し、市で作製したマスクケースやポスター等の啓発資材配布を行った。</p> <p>○古紙市況の低迷を受け、集団資源回収事業参加協力業者助成金の交付を開始した。</p> <p>○プラスチックごみ削減を目指し、マイボトル専用のウォーターサーバーを市施設等に35台設置完了した。</p> <p>○容器包装プラスチック、ペットボトル、びん・かん、雑がみ、小型家電、古着古布等のリサイクルを引き続き進めた。</p> <p>○第2一般廃棄物最終処分場整備事業については、引き続き用地の取得を進めるとともに、周辺住民からの要望について関係者間で調整を進めた。また、処分場の設計及び建設を一括して行う事業者の選定に向けた業務を行った。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○事業系ごみは前年度比2,985t/年減少しているものの、家庭系ごみが955t/年増加しており、「市民1人1日あたりごみ排出量」が目標未達成となった。これは新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛による影響等が原因と考えられる。</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○ごみ処理の低炭素化や、さらなるごみの減量化のための施策を検討する。</p> <p>○食品ロスやプラスチックごみの削減など、引き続き、市民にライフスタイルの見直しを促し、「もったいない」の心を醸成する。</p> <p>○家庭ごみの委託割合70%を維持し、安定的な家庭ごみの収集運搬体制を維持していく。</p> <p>○最終処分場の整備については、搬出入路の用地取得を進めるとともに、設計及び建設を一括して行う事業者を決定し、建設工事を行う。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○今後も引き続きごみの減量化と資源化の推進に取り組んでいく。</p>								
SDGsへの貢献								
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう					
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを					
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任					
レ	4 質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を					
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう					
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう					
レ	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に					
8	働きがいも経済成長も	レ	17 パートナリーシップで目標を達成しよう					
9	産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R3.7.30	記入者職氏名	環境クリーン部次長 大館 真哉 環境クリーン部資源循環推進担当参事 池田 淳					

第4節	大気・水環境等
関係所属	環境対策課、生活環境課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和2年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,537人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「大気・水環境等の保全」 身のまわりで空気や水の汚染、騒音、悪臭などを感じない	1,307	51.5%	380	15.0%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
	大気環境にかかる環境基準の達成率	%	86.4	90.9	86.4	×	100

事業目標の達成状況

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R2年度目標値	R2年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-4-1 大気環境の保全	大気規制対象事業所のばい煙にかかる排出基準適合率	%	100	100	100	○	100
4-4-2 水環境等の保全	水環境にかかる環境管理目標の達成率	%	100	100	100	○	100
4-4-3 土壌・地盤環境の保全	汚染拡散防止率	%	87	91	96.0	○	100
4-4-4 生活環境対策の推進	苦情相談解決率	%	93	93.8	96.5	○	95
4-4-5 学物質の環境リスクの管理	化学物質排出量	t	26.5	26.0	22.1	○	25.1

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 ○大気環境の常時監視を行うとともに、発生源となり得る事業所への立入検査や指導等を行った。
 ○河川や地下水の水質汚濁の状況を監視、測定するとともに、発生源となり得る事業所への立入検査や指導等を行った。
 ○土壌汚染対策や土砂のたい積規制等を行った。
 ○騒音・振動・悪臭等の公害苦情相談を実施し、早期解決に努めた。
 ○化学物質による環境への影響を未然に防止するため、関係法令に基づき、事業者による化学物質の自主的な管理を推進した。
 ○東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質による環境へのリスクに対応するため、引き続き監視業務を行った(月1回)。
 ○環境推進員連絡協議会と連携し秋の「環境美化の日」一斉美化清掃活動を実施した。(春の「環境美化の日」は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令に伴い中止。)

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 ○大気環境にかかる環境基準の達成率については、市内3地点で測定しているオキシダント濃度が環境基準未達成となっている。環境基準の達成が全国的に見ても非常に困難なものであることが理由として挙げられる。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 ○大気汚染や水質汚濁について、引き続き状況を監視・測定するとともに、発生源となり得る事業者への立入検査・指導を実施する。
 ○土壌汚染対策や土砂のたい積規制についても引き続き法令に基づき監視・測定する。
 ○騒音・振動・悪臭等については、発生自体を減らしていくために、引き続き啓発活動を実施する。
 ○市内で使用されている化学物質について、PRTR制度に基づき、化学物質の性状及び管理、排出状況などの情報を把握し、市民に公表する。
 ○アセスメントについては、大気汚染防止法の改正などを踏まえ、関係者への周知や指導等を適切に進めていく。
 ○市民参加による環境美化を推進することにより快適な生活環境を確保する。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 ○オキシダント濃度については、工場・事業場などの排出ガス対策、低公害車の普及啓発等を総合的に推進することでさらなる改善を目指す。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R3.7.30	記入者職氏名	環境クリーン部次長 稲子谷 昂子
-----	---------	--------	------------------